

## 第2回中部圏広域地方計画学識者会議（概要）

日時：平成19年11月2日（金）13:00～15:00

場所：CASTLE PLAZA（キャッスルプラザ）鳳凰（南）

### 1. 開会

#### 〈中部運輸局 中田局長〉

- ・ 本省からは、国際競争、少子高齢化といった我が国全体の課題や、地域固有の課題、地域特性をいかした取組について、もっと強調すべきではという意見がある。
- ・ 中部圏では、まんなかである強みをいかし、弱みを克服する発展戦略を策定している。
- ・ 本日、中部圏の地域特性を最大限に生かした、持続的発展のための政策のあり方について、忌憚のないご意見を頂きたい。

#### 〈国土計画局 西脇審議官〉

- ・ 全国計画の策定は、作業は大詰めであり、基本的な方針は示せられるが、中身の大部分は広域地方計画に委ねられるものと考えている。
- ・ 事業のための計画ではなく、幅広い観点に着目した計画ができればよいと考えている。
- ・ 準備会のメンバーだけでの検討では、社会資本整備に偏りすぎるため、幅広い分野で検討を進めていきたい。

### 2. 議事

進行：奥野座長

#### 1) 中部圏広域地方計画の構成案の考え方（案）について

##### 〈中部圏広域地方計画推進室 石原総括副室長〉

- ・ 資料1 説明

### ■意見交換

#### 〈渡邊委員〉

- ・ 将来像の「まんなか」というキーワードは良いが、地理的な中心という捉え方は、自己中心という受け止め方もあるようであるため、「中枢性」「拠点性」という言葉に置き換えてもいいのではないかと。ただし、キャッチフレーズとしては固すぎるため、人・物・情報が行き交う「イノベーターの十字路」という言葉を使ってはどうか。
- ・ 中部と近畿が、大きな力が発揮できるような情報発信力を身につける事により、自立、自律、個性的な魅力を世界に向けて発信する事が可能な地域になるのではないかと。
- ・ 「暮らし」について、いきいき暮らせるための高い文化性という言葉に置き換えると、志の高さが醸し出されていいのではないかと。

#### 〈古田委員〉

- ・ 全体的に農村や地産地消といった部分が薄いのではないかと。第2章第4節において手

厚くして頂きたい。

- ・ 計画の方向性としては、中部地域の魅力を生かし、消失させない事を考える必要があるのではないか。都市的、近代的な生活を追い求める今までの計画ではなく、何が魅力かを検討する必要がある。
- ・ 森林や水の問題の他、人的資源やコミュニティの再生についての検討も重要。
- ・ 経済指標には出てきにくいだが、緩やかな時間の流れ、人的資源、人とのかかわりといった豊かさについても考慮すべき。人と人との繋がりやコミュニティを作っていくアンペイドワークの時間も豊かさの一つと考える。
- ・ スローフード（地産地消）について、安く当たり前のように野菜が手に入るといった従来どおりの食生活を送る事ができる事も、豊かさの一つと考える。また、食事の改善が人づくりに重要だと言われている。
- ・ 他国では、女性のアンペイドワークの保障、女性の地域市場への職業の供給、一人一人を農業者として認定しきような地位の向上が考慮されており、アンペイドワークの評価が進んでいる。日本の場合はそのような視点が計画の中に入っていないため、配慮して頂きたい。

#### 〈辻本委員〉

- ・ 強みと弱みから、中部のビジョンに繋がる何を抽出するかが明確になっていない。中部の現状から、中部の特徴を抽出して、それをビジョンに活かすという手続きをしつかりとすべき。
- ・ 「まんなか」とは、放射状に全てが名古屋に結ばれば良いという捉え方ではなく、三重と岐阜、岐阜と長野、長野と静岡がうまく繋がっている事を強調していく事も重要。周辺地域の隣同士がうまく連携している事が中部全体にとって強みになるという考え方が欠けているのではないか。
- ・ 基本方針について、戦略性という意味で中部の特徴が活かされておらず、一般的なものとなっている。5本の柱を独立して考えるのではなく、それぞれをいかに連携させるかを考える必要がある。

#### 〈竹谷先生〉

- ・ 「まんなか」について、中枢性、拠点性という言葉に置き換えて考えると、周辺地域に対して格差を助長しかねないと思う。中枢性、拠点性という機能も重要ではあるが、地域が自立して連携するという要素を強く持つ必要がある。中枢性、拠点性が栄える事が、地域の自立に繋がっていくという発想が必要。
- ・ ものづくりは二次産業、農業は一次産業としてだけでなく、サービス産業であるという発想にもとづき、付加価値を加えたものにしなければ、世界は注目してくれないのではないか。
- ・ この夏、岐阜が日本最高気温を記録した事に絡み、ヒートアイランド問題を中部地域の固有の課題として、何らかの方向性を示す事が必要ではないか。

#### 〈須田委員〉

- ・ 資料について、項目は網羅されていて良いが、メリハリを付けた資料構成にする必要があるのではないか。5つの項目について、1番目・2番目と3番目・4番目・5番目で区切るべきではないかと考える。環境、暮らし、安全・安心は、交流やものづくりに資する基盤であるため、並列するのではなく、分けて説明した方が分かりやすいのではないかと。
- ・ 説明の仕方としては、大前提として「まんなか」をどうしていくかを述べ、次に展開として賑わいづくりをどうするか、ものづくりをどうしていくかを述べ、それを支えるものとして、環境、暮らし、安全・安心の問題を述べていくのがよいのではないかと。それらを展開していく中で大事なポイントは、交流の促進ではないかと。
- ・ 「まんなか」という言葉について、単にまんなかという一極集中と誤解される。中部は、交流を円滑化させるロータリー的な役割を果たすと考える。
- ・ ものづくりについて、工場でものを作るだけではなく、ソフト的・精神的なものも含め、付加価値を高めるといった意味合いの説明を加えた方が良い。
- ・ 中部の交流は、現状は分散しているため、地域のもつ活力をいかし、隣接圏域との橋渡し役として連携していく事が重要。

#### 〈奥野座長〉

- ・ 国土形成計画の軸になるのは「人の移動・交流が生み出すダイナミズム」である。

#### 〈須田委員〉

- ・ 中部の生きる道は国土軸の考え方ではないかと考える。

#### 〈後藤委員〉

- ・ 時代の潮流について、グローバルレベルの課題、日本の課題、中部圏の課題が混同している。また、課題ではなく、活力の源になるものもある。課題をレベルごとに整理し、そのなかで活力の源になっているものを見分けると共に、解決のための強み、弱みは何かということを提示していく事により、基本方針に活かせるのではないかと。
- ・ 将来像について、「〇〇から〇〇へ」とすると、地理的な意味合いが強く、新しい意味合いの“まんなか”を加えようとしても、地理的なまんなかに引きずられることが懸念される。「自立した地域のネットワークによって世界のまんなかづくり」とした方が、中部内外へアピールしやすいのではないかと。
- ・ 5本の柱について、色々なものが連関しながら立体的に示されるとよい。
- ・ 産業について、前進させていく視点も重要だが、支える人達をひきつける事も必要であり、雇用の場の確保が発展に繋がると考える。
- ・ 若い研究者が集まる、東アジアの研究拠点となる大学がいくつか出来ていく事も記述されると良いのではないかと。

#### 〈金城委員〉

- ・ 弱みを克服し強みに変えていく事に関連して、例えば大規模災害に対する防災対策について、よそではできない技術を開発し、それを強みに世界へ発信する事が可能にな

るといった考え方が必要。

- ・ 将来像は前回から変更されているが、5つの基本方針は前回のままである。将来像を「世界のまんなかへ」と変更したのであれば、5つの基本方針はこのままでよいのか。どのような分野で、世界の中枢性・拠点性を確保しようとしているかが見えない。今回提案されている将来像は、夢があつて語呂もよいが、これを生かすのであれば基本方針もそれに沿った修正が必要ではないか。
- ・ 農林水産業の活性化、持続的発展という観点から、もう少し突っ込んだ対応をしていただきたい。
- ・ 人づくり、後継者づくりの視点を加えるべき。産業を支えるのは人であるが、人づくりへの配慮が足りないと感じる。
- ・ 食料をいかに確保するかという視点が重要であり、食料自給率向上に対する配慮も必要ではないか。
- ・ 広域連携プロジェクトについて、南北軸を強化して東アジアとの交流に繋げるといった視点などについても、もう少し触れて頂きたい。

#### 〈奥野座長〉

- ・ 第4章において、地域文化の尊重・育成が表に出てきてもいいのではないかと考える。中山間地域・限界集落では、自分たちの文化が尊重されていることが誇りであり、地域文化の尊重が住民の満足度を高め、地域力に繋がると考える。
- ・ 言葉の使い方に配慮すべき。東アジアはインドまで含まれ、シームレスアジアは大洋州を含む。

## 2) 中部圏の持続的発展に向けた政策の方針について

### ■意見交換

#### 〈渡辺委員〉

- ・ 交流は競争により生まれる。競争の次元が高まれば、レベルの高い人材が集まり、良い技術、情報が発信される。外と大きく連携をする事で活力が維持・発展していく。
- ・ 地球規模の環境問題について、どこが主導権を持ち、どこがグローバルスタンダードになるか、今後競争になる。環境イノベーションが21世紀の活力の源になると考える。
- ・ 世界に貢献するような視点を交流・連携に醸し出すようにお願いしたい。
- ・ 各論であるが、大阪港、神戸港、尼崎港が一つになったのと同様に、伊勢湾の港を伊勢湾港と大きく括り、第3部に書き込んでいってはどうか。

#### 〈須田委員〉

- ・ 広域計画を作る上で、北陸と連携した、大きな中部で考えないと良いものは出来ないと考える。北陸は環日本海経済圏の玄関口、中部は環太平洋経済圏の玄関口であり、それぞれが役割分担をし、中央経済圏を形成していかなければならない。将来、北陸と連携できるような連結器を持った計画を策定すべき。コンセンストを絶えず作り、差

し込むだけですぐに流通できるような中部の広域地方計画を作って頂きたい。

- ・ 首都圏や近畿圏とも連結できるような柔軟な視野と、地域のアイデンティティを生かす視野を持ち、交流・連携を考えていくべきではないか。

#### 〈金城委員〉

- ・ 記載表現について、「中部」と「中部圏」の使われ方が混在しているため、整理する必要がある。

#### 〈古田委員〉

- ・ 山が荒れると川、海が荒れるという問題があるが、行政単位ではなく、流域単位の問題である。環境面でも連携して広域的な取り組みができるよう配慮して頂きたい。
- ・ 地産地消の問題、食の安全について、どのように表現されるかが不明であるが、「暮らし」や「活力」の所に書かれていくとよいのではないか。

#### 〈辻本委員〉

- ・ 圏域が連結器で結ばれるべきという話はわかるが、区画を区切って連結器で繋げるだけの話ではなく、さほど意識する必要はないのではないか。行政圏と流域圏が混在している現状を踏まえ、圏域領域の曖昧さを認識した計画が必要ではないか。
- ・ 持続性が途絶える時、中部はどうなるかという視点も重要ではないか。CBP の考え方が必要と考える。
- ・ 中部が壊滅的な被害を受けた事を想定し、中部を優先的に防災力の強い地域に仕上げる事が重要。他地域がどれだけ援助してくれるかは、中部が他圏域に対し、どれだけの信頼感を得ているか、すなわち他の圏域にどれだけの貢献をしているかに関わってくる。
- ・ 中部の信頼感を世界の中でどう確保していくかが重要な視点ではないか。

#### 〈竹谷委員〉

- ・ 現在、中山間地域で元気な所は、自分の個性を発見してビジネスに繋げ、色々な交流を通じて活力を高めている。農林水産業の生産に限らず、付加価値をどのように結びつけていくかという視点を織り込まないと、活力は維持出来ない。それらの特性を情報発信することで中山間地域の活力が維持されるのではないか。
- ・ 二地域居住の願望が高まっている中、そのニーズをどのように具体化していくかが重要。それにより中山間地域において農業のサービス業化を実現していくための基盤整備が充実してくるのではないか。
- ・ イノベーションについて、破壊型のイノベーションという視点も国際競争において重要ではないか。高度化ではなく、シンプルにしていくというアプローチも地域個性を発揮する上では必要ではないか。

#### 〈後藤委員〉

- ・ 地域住民や NPO 等が主体的に活動する場が必要ではないか。空き公共施設などのスト

ックを有効活用出来るとよい。

- ・ 潮流に書かれている既存ストックの老朽化という視点については重要であり、この地域がどう取り組んでいくかを具体的に盛り込んで頂きたい。

#### 〈奥野座長〉

- ・ シームレスアジアという言葉はどうとらえるかが重要。日本の都市間が一体化して機能するためのハード整備が必要。
- ・ 新たな公とシームレスアジアとの関係について、アジアからの留学生が普通に行き来し、普通に生活できる環境がシームレスアジアであり、それを実現するためには民間やボランティア団体などの新たな公の支援が大きな役割を果たすと考える。

#### 〈渡辺委員〉

- ・ 海外からの優秀な留学生に対するレベルの高い教育により、それら教育を受けた人々が将来的に海外と日本をシームレスに繋ぐキーマンと成りうるのではないか。研究拠点が連携をすることで、中部地域の国際交流の力が付くのではないか。

### 3) その他

#### 〈中部圏広域地方計画推進室 石原総括副室長〉

- ・ 資料2説明

### 3. 閉会

#### 〈中部圏広域地方計画推進室 上田室長〉

- ・ 今日頂いた意見を参考に、今後の計画策定に活かしていきたい。
- ・ ご指摘があった地域文化の話について、今後取り上げていきたい。
- ・ 将来像について、手短で語呂が良く、メッセージ性もあり、キャッチフレーズとして今後も利用したいと考えている。中部圏の将来像として、これが何を意味するものかを説明出来るよう、意味合いをはっきりしていきたい。
- ・ その他、気づいた点があれば事務局まで意見を頂きたい。

#### 〈中部地方整備局 金井局長〉

- ・ 将来像のまんなかという言葉について、放射状、集中という意味だけで使っておらず、環状という意味も兼ね備えていると考えている。
- ・ 基本方針について、区切った方が分かりやすいという意見を頂いたが、因果関係が前後していたり、時間や地理的な要素が前後しているため、フローチャートで構造的に示さないとわかりにくいため、今後検討していきたい。
- ・ ご指摘の通り、アンペイドワークの視点、ビジョンの欠如、ものづくりの表現など、思想的な部分が手薄であったように感じるため、今後検討していきたい。

以上